

常任委員会視察報告

平成二十六年七月に実施した各常任委員会の調査視察の概要を報告します。

総務文教常任委員会

《大分県別府市》

別府市公共施設白書

別府市は、人口約十二万人。温泉群が点在する観光のまちです。

市の公共施設の約六割が建築後三十年を経過し、耐震化や修繕への対応が急務となっていました。別府市では平成二十四年度に今後の施設のあり方を検討する基礎資料として公共施設白書を作成しました。平成二十五年度からは公共施設マネジメント室が設けられ別府市公共施設マネジメント計画の策定に取り組んでいました。

《福岡県久留米市》

災害に強いまちづくり

久留米市は、人口約三十万人。福岡県第三の都市です。

久留米市では、東日本

大震災と九州北部豪雨を教訓に平成二十五年度に地域防災計画の見直しを行いました。これに合わせ、災害時に自動的に放送される緊急告知ラジオの配布と販売、本庁舎及び総合支所へ非常用電源を整備しました。また、消防団は平均年齢三十五・二歳、団員数千五百八十七名、うち女性消防団員百二十四名となっています。各小学校区に配置される消防団格納庫には、トイレ二カ所、シャワー、エアコン、流し台が標準設備され充実していました。

このほか、「外部監査制度」についても伺いました。

《鹿児島県鹿児島市》

防災ノート

鹿児島市は人口約六十万。南九州の中心的な都市です。

防災ノートは、大雨、

建設常任委員会

《岡山県玉野市》

公共施設の再編整備等の方向性

玉野市では、昭和三十年代から五十年代にかけて建設されたものが多く全体的に老朽化が進んでおり、大規模改修や建て替えを要する施設の増加や、耐震化やバリアフリーへの対応も求められています。一方で人口減少や高齢化の進展により公共施設に対するニーズが変化することも予想されています。このようなことから市民満足度の高い行政サービスを安定的に提供するには中長期的な視点に立つことが必要と考え、いち早く公共施設白書を作成しています。その上で公共施設の再編整備等の方向性を取りまとめ、専門部署を設置して取り組んでいます。①現存施設の活用②共通化・複合化の推進③民間活力の導入④優先順位⑤国県等の財源の有効活用⑥後年度負担への配慮を基本方針として進めています。



福岡県久留米市にて

《広島県安芸高田市》

安芸高田市に生かす補助事業

安芸高田市は戦国武将の毛利元就が生涯を過ごした地であり、三人の子供に残した「三矢の訓え」にちなみ、「三矢の住宅政策」として①子育て・婚活定住促進団地購入補助金②子育て・婚活住宅新築等補助金③安全・安心・住環境リフォーム補助金を制度化し、これらを総称し安芸高田市に住めぐる補助金と名付けていました。少子高齢化や人口流出、若者の定住促進に対応するには大胆な事業や民間活力を活用することの必要性を感じました。

《山口県山口市》

都市再生整備計画（一の坂川周辺地区）

当地区は山口市の中心商業地に位置し、北側には行政・文教施設が集積し、瑠璃光寺五重塔などの歴史的遺産や桜並木を有

する一の坂川など集客力に優れた資源を有しています。しかし、一の坂川は水害対策のため河川改修をした結果、三面張りの味気ない河川となり、地区内の中心商店街とのつながりも欠けていました。このことから、失われた河川の風情を取り戻し、まちを再生しようとする地域住民と山口市が協働して提案した内容で事業が行われています。道路の新規整備や美装化、植栽、ベンチ設置、広場の設置などにより、にぎわいを取り戻す取り組みがされていました。当市の稲生川を活用したにぎわい創出にも生かせると感じました。



広島県安芸高田市にて